

---

# 大晦日！ スペシャル大会！

龍斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大晦日！ スペシャル大会！

### 【Nコード】

N8449P

### 【作者名】

龍斗

### 【あらすじ】

大晦日特別編です。

今年1年も色々なことがありましたね！

ここは平和なセントラルワールドのスマブラ寮。空中スタジアムの真下にある。

マスター「え〜今日は大晦日だからスペシャル大会を始めようと思う。38人全員だ」

突然、マスターがスマブラメンバーに提案した。

いつもなら1秒毎に批判がでるのだが、大晦日ということだし、どうせ作者に強制でやらせるのがオチだからメンバーは何も言わなかった。

因みに38人というのはDr・マリオとマリオ、子供リンクとトウインリンク、ゼルダとシーク、サムスとゼロスーツサムスを同一人物だと考えているからである。

マスター「えーと、トーナメント戦で・・・」

どうやら、5つのブロックにわけられるらしい。

3強はシード権。

Aブロック

マリオ、ガノン、ロボット、ピット/ルイージ、ピチュー、プリン

Bブロック

クッパ、カービィ、サムス、ピカチュウ/アイクラ、デイディー、リユカ

Cブロック





マリオ「多すぎだろ」

「ゼル伝シリーズ」

エポナ、サリア、ケポラ・ゲボラ、ミド、ルト、ダルニア、インパリンク「時オカ組しかいないのは何故？」

マスター「作者が時オカかしらないから」

「カービィシリーズ」

リボン、グーイ、リック、クー、カイン、トツコリ、フーム、ブン、パーム大臣、メームエスカルゴン、コックカワサキ、レン村長、ハナ夫人、村長の孫、ボルン署長、サト婦人、郵便局長モソ、メーベル、サモ、ビブリ、キュリオ氏、ガス、タゴ、ガング、ヤブイ、イロー、ハニー、ホッヘ

カービィ「なぜかフームとブンが多く登場してるよね」

クレイジー「作者が星のカービィアニメ版が好きだからだ」

「ポケモンシリーズ」

ヒカリ、タケシ、ケンジ、ジュン、シンジ、ウララ、コウヘイ、タクト、カスミ、ハルカ、チェレン、ベル、N、ヒヨウタ、ナタネ、スモモ、マキシ、メリッサ、トウガン、スズナ、デンジ、オーバ、シロナ、オーギド博士、ミミロル、ヒトカゲ、ポッチャマ、チコリータ、ミュウ

(後ろの五匹はポケパーク)

レッド「俺の知ってる人がカスミ、タケシ、ハルカ、オーギド博士とヒトカゲ、ミュウしかない・・・」

マスター「作者がDPが好きだからだ」

レッド「・・・カントー組は???」

「ソニックシリーズ」

エミー、ティルス、ナツクルズ、ルージユ、クリーム&チーズ、クリス、チャック、メッセンジャーロボ、「音速の騎士」「音速の貴公子」「ハイウェイ・スター」「ステーションスクウェアの旋風児」「嵐を呼ぶスピードキング」「愛の暴走特急」「ハイスピード・ビツグウェイブ」「暁の弾丸」「マツハの嵐」「銀河の疾風」「荒野のストレンジャー」「ダリシング・コマンド」「空の青春のヘッドライト」「栄光のザ・マン」「フリーウェイの無責任男」(サム)ソニック「What?まさかのアニメ限定現実世界か?」

マスター「それは作者がアニメ・・・聞かなくてもわかる」  
他数千、数万人が来ている。

マスター「えゝそして!

これはニンテンドー中で放映されている!

皆「!?!?!?!」

そう、これは世界各地で放映されている。

~~~~~

「シンオウ地方」

『シンオウナワ大晦日スペシャル!!』

まもなく大晦日スペシャル大会がここ、セントラルワールドで開催されます!』

ダイヤ「おつ、レッド頑張れよ!」

「ドルピック島」

『(ドルピックニュース)大晦日スペシャル・・・大晦日スペシャル大会がまもなく開催 スマッシュブラザーズが5ぶろっくに分かれて・・・』

モンテ族「マリオさんファイト！」

~~~~~

マスター「そのため、視聴者、観戦者の前で下手な試合をしたものは小説の出現率を減らす。場合によってはスマッシュブラザーズから抜けてもらう」

「ええええ〜!!」

そう、これは一見お遊びの大会のようだが結構重要なことなのだ。

マスター「ってことでがんばれ」

マリオ「・・・い、いこうか・・・」

A - 1

マリオ「ファイアボール!!」

マリオロボットに向けて火球を放つ・・・

ロボット「キキマセンヨ！」

が、簡単に避けられてしまった。  
上ではピットが飛び、ガノンが拳を振り回し、A - 1で既に凄い状態となっている。

ピット「パルテナアロー!!」

ガノン「魔人拳!!!」

ロボット「ジャイロ!!」

数々の技が飛び交う。

そんな中勝ち抜いたのは・・・

マリオ「イッツ ミー マリオ!!」

マリオ。ミスターニンテンドーの名に恥じない最初の勝利を手にした。

その後A - 2、B - 1からC - 2が行われ・・・

D - 1

ファルコン「よし!この大会で勝って3弱から抜け出してやるぜ!!」

アイク「はあ!!」

ミュウツー「始めようか・・・」

ウォッチ「ピコピコピコピコ!!」

バトルスタート!!

ファルコン「ファルコン……」

真っ先に技をためるファルコン。アイクは台座に飛躍、ミュウツィはウオッチとバトル。

ファルコン「ダイブ！」

アイクが上に行ったのでダイブして向かうファルコン。しかしアイクもそれに備えてある技を貯めていた。

アイク「はあああ！噴火！！」

ファルコン「!?!?ぐあああ！」

ファルコン、一発KO……。 (この小説のダメージ計算は名ばかりだから気にしないように)

ミュウツィ「念力！」

ウオッチ「クツ……ヤリマスネ、ミュウツィサン。

デモワタシモマケマセンヨ!

ジャッジ!!!!!!」

ウオッチのジャッジが炸裂。レベルは7とかなり高い。

ミュウツィ「グオオオ……」

ミュウツーにヒットし、ラッキー7で回復アイテムが出てくる。

ウォッチ「マダマダイキマスヨ！ファイア！！」

今度は炎をミュウツーに向ける。

ミュウツー「テレポート！！」

ミュウツーはテレポートでウォッチの後ろへ回った。

ウォッチはよけられたことによりちよつと驚いている。

そこへアイクもやってきた。

アイクはウォッチに切りかかる。

アイク「はいやあああ！天・空！！」

ウォッチ「ッ！！ピピピ！！」

アイクはウォッチを飛ばし、地面に着く前にすばやく移動する。

アイク「止めだ！噴火！！」

ウォッチ「ウワアア！」

ウォッチは噴火で吹っ飛ばされた。ファルコンの場合、メテオのよ  
うに落とされたので一発KOだったが・・・

ウォッチ「パラシュート！」

アイク「くそ！」

ウォッチはパラシュートで復帰。  
そしてアイクの後ろから……

ミュウツィ「ワタシもいることを忘れるんじゃない！シャドーボール！」

アイク「え？……ぐあああ!!！」

アイクは悲鳴を上げながら場外。  
残るはミュウツィとウォッチ。

ウォッチ「イキマスヨ！」

ミュウツィ「はあああ……」

二人とも攻撃態勢に入る。  
フィールドが静まる。

ミュウツィ「ハッ！」

先に動いたのはミュウツィ。

シャドーボールをためる。対するウォッチは動きを見せない。

ミュウツィ「シャドーボール！」

闇の弾がウォッチに放たれる。

しかしウォッチはその場から離れずある黒いものを取り出した……

ウォッチ「オイルパニック!!」

黒いものとはバケツだった。そのバケツはシャドーボールを吸い取っていく。

ミュウツー「しまった!!」

ウォッチ「モウ9ネンモタタカイツツケタノニカンガエラレナカツタノデスカ?」

ウォッチがミュウツーをあざ笑うかのように言う。

ウォッチ「コンドハコチラカラデスヨ!」

そう言い、ウォッチは飛躍。

そのままミュウツーの頭上に迫った。

ウォッチ「ドンキーコングJr!!」

ウォッチがカギを持ち急降下。

しかしミュウツーはテレポートでよける。

ミュウツー「甘いな!」

ミュウツーは着地したウォッチの背後に回り、すぐさまスマッシュを始める。

ウォッチは後ろを振り向く。

しかしどうすればいいか混乱してしまう。

ミュウツーの闇の気を持った拳がウォッチに当たった・・・はずだった。

ミュウツー「うおおお!？」

吹っ飛ばされたのはウォッチではなくミュウツー。

オイルパニックを使ったのだ。

そしてミュウツーが復帰しようとしたときにラッシュをかけた。

勝者、ウォッチ。

その後、他のブロックでも激戦が続きR1終了。

R2に入る。

マスター「えー、第2ラウンドのルールは・・・」

マスターが第2ラウンドのルールを発表する。

そのルールとは勝ち抜いた10人がサバイバルバトルをし、最後の三人となった時点で終了。

その三人は3強の待ち構える決勝戦へ。

なお、協力して倒すのもありで、技も何でも使って良いそうだ。

そして勝ち抜いてきた10人はこちら・・・

マリオ、ルイージ、クッパ、リュカ、リンク、ロイ、ウォッチ、ソニック、ドンキー、レッド

と、またまた作者の適当に決めたメンバーである。

マスター「それではR2サバイバルバトル、開始!!」

マスターが合図を出す。

10人はその合図と共に動き出す。

マリオ「ルイージ、俺達で決勝戦参加枠に入れるぞ！」

ルイージ「OK、兄さん！」

クッパ「ガハツハハ！参加枠は渡さん！」

リュカ「よし！がんばるぞ……！」

リンク「はああ！」

ロイ「リンク、勝負だ！」

ウォッチ「ピピピ……」

ソニック「It's show time!!」

レッド「ゼニガメ、君に決めた！」

（マリオ・ルイージ、リュカ・????）

マリオ&ルイージ「甲羅キーツクツツ!!」

リュカ「PK LOVE!!」

緑甲羅とPK LOVEがぶつかりあう。相打ちだ。  
しかしリュカ一人では荷が重い……

リュカ「（大丈夫かな・・・マリオさんたちになう兄弟はいないって言うし・・・）」

リュカが不安になってるとき、誰かがリュカの肩を叩いた。

リュカ「え・・・？」

レッド「俺も一緒に戦うよ。いくよ、マリオさん！ルイーダさん！」

レッドだった。レッドは普段は読書ばかりしていて無口な方だがバトルになると熱くなる。

マリオ「おう！子供だからって手加減なしでいくぞ！全力でかかって来い！」

レッド「よし、いくぞ！ゼニガメ！水鉄砲！」

ゼニガメ「ゼニー！」

レッドの指示に答え、すばやく水鉄砲を放つゼニガメ。マリオはそれにポンプで対抗。

ルイーダはネスとバトル中。

PSIに苦戦している。

ルイーダ「はあはあ・・・リュカ君、ここ数年でさらに腕を上げたんだね！」

僕も負けないよ！ウルトラハンマー！」

|||||そのころ、観客席その一|||||



ブロドック「ガウガウガウガウ！」

クツパがすぐさま汚れたブロドックを洗う。

ロイ「何をやる気だ!？」

クツパ「ボコスカブロドック!!」

クツパの合図と共にブロドックがロイに激突。

次にまた反対側からブロドックが激突。さらに上に上がって急降下。最後に次々とブロキヤットが当たっていく。

ロイ「ぐあああ!!」

ロイ、脱落。残り9名。

リンク「ロイがやられたか・・・」

クツパ「次はリンク、お前だ!」

|||||そのころ、観客席その二|||

クリボー「クツパ様ファイト!!」

ノコノコ「クツパ様!クツパ様!」

ミド「リンク!負けるな!」 リンクが大人になったことはサリアから聞いた

サリア「頑張つて!」

トウーン「リンクさん!」

ガノン「負けたら承知しんぞ！」  
因みに、負けたメンバーは全員観客化

|||||

リンク「はあはあ・・・」

リンクはクツパの攻撃に押されている。

リンク「回転斬り！」

クツパ「効かぬわ！」

クツパは回転斬りを軽々とよける。

リンクの体力はもう限界だ。そんな時、左手のライフオーズが光る。

リンク「！？ゼルダ姫！ガノンドロフ！サリア！ルト！ダルニア！」

ゼルダとガノンドロフのライフオーズの力にリンクのライフオーズが応え、サリア、ダルニア、ルトの賢者の力が集まった。

リンク「くっ・・・はあああ！」

クツパ「よし、リンク！決着をつけるぞ！」

リンク「うおおお！オカリナトライオーススラッシュュ！！！」

オカリナトライオーススラッシュュ（オリジナル）とは時オカの力が集結してできたトライオーススラッシュュに無理矢理名をつけた技で

ある（え

クツパ「うおおお！メガクツパ変身！！」

クツパは巨大化してリンクの剣を受ける。

リンクは力を振り絞り攻撃する。

しかし、巨大化したクツパの力はとても強力で……。

メガクツパ「ゲオオオオ！！！！」

メガクツパはリンクを突き飛ばし、ファイアで止めをさす。  
リンク、脱落。残り8名。

（ソニック、ウオッチ、ドンキー）

こちらはスピードパワーの勝負の超波乱。

ウオッチ「ジャッジ！」

ソニック「スピンドッシュュ！！」

ドンキー「ジャイアントパンチ！！」

ウオッチとドンキーがぶつかり合えばソニックが真ん中を駆け抜ける。

また、ソニックが走ればドンキーが地面を叩く。

ソニック「スピンドッシュュ！！」

ドンキー「サンダーブラスト！」

ソニックがボール状になったものをドンキーがサッカーのようりよ

うで吹き飛ばす。

ソニック「Noooo!!」

さらにはウォッチのつかみ攻撃。

ウォッチ「ボール！」

まるでお手玉のようにソニックを攻撃する。

しかしドンキーがウォッチを殴りかかりぶつ飛ばす。  
まさに波乱の状態だ。

ソニック「こうなったら・・・」

ウォッチ「イキマスヨ・・・」  
ドンキー「ウホウホッ！」

三人は決着がつかないと思い、最後の一撃にかける。

スーパーソニック「決めてやる！」

オクトパス「ワタシダッテ！」

ドンキー「ウホウホッ！」

スーパーソニック、オクトパス、タルコンガビートがぶつかり合う。

ドバーン!!

決着は・・・

ソニック「くそ……」 ウオッチ「ヤリマスネ……」 ドンキ  
ー「ぐっ……」

三人ともその場に倒れてしまった。

ソニック、ウオッチ、ドンキー脱落。残り半分となった。

「……………そのころ、観客席その三……………  
エミー「ソニック!!」

テイルス「あゝあ、負けちゃったか……」

ファンキー「ドンキー、残念だったね」  
デイディー「あーあ……」

バルーンファイトの主人公「ウオッチはよく頑張ったよ」  
ピット「ウオッチさんも負けて、あとは……」  
ポポ「マリオさん、ルイーダさん、クツパさん、レッドさん、リュ  
カだね」

……………

再びマリオ・ルイーダ、リュカ・レッド

こちらにも波乱の状態となっている。

マリオ&ルイーダ「ワンダーメテオ!!」

レッド「プテラ!破壊光線!」

プテラ「ギャオース!」

リュカ「pk・・・フリーズ！」

ワンダーメテオ、破壊光線、pkフリーズがぶつかり合う。  
しかし破壊光線とpkフリーズだけでは隕石には勝てず・・・

マリオ&ルイージ「EXCELLENT!!」

リュカ「うあああ!!」

レッド「プテラ!リュカ!!」

リュカ、脱落。

レッドは技はスマブラのままだが、代わりに3匹に加え、プテラ・カビゴン、ギャラドスが入っていた。  
しかし残るは御三家しかない。

レッド「くそ!こうなったら・・・行け!ゼニガメ、フシギソウ、リザードン!!」

レッドは3匹をいっせいにだす。

レッド「三位・一体!!」

ゼニガメのハイドロポンプ、フシギソウのソーラービーム、リザードンの大文字が炸裂。

マリオとルイージは・・・

マリオ&ルイージ「こいこいスター!!!!!!」

レッド「いつけえ!!」

マリオ「負けるかあ!!」

ズドバーン!!

激しい爆風が起こる。

レッド「三体戦闘不能か・・・よく頑張ったよ、ゼニガメ、フシギソウ、リザードン」

レッド脱落。マリオ、ルイージ、クッパが残り、決勝戦へ

|||||

ファルコ「マリオたちか・・・相手にとって不足は無いな」

スネーク「大佐!いまから決勝戦を始める!」

メタナイト「さあ、楽しもう」

|||||



クレイジー「今年を締めくくれるな！」

カービィ「それよりおなかすいたよ〜」

マリオ「全く、カービィは変わってないな」

マスター「まあいいだろ。それでは皆さん・・・」

よいお年を！！！！」

(後書き)

早いこと今年も終わりです！  
今年も色々なことがありました！！

観客は俺の好きなので集めてますよ。  
流石にレッドがいるのにカントーが全然いないのは・・・と  
思って三人だけだしました。

ミュウツーとウォッチ・・・

先日、弟がクリスマスプレゼントとしてDXを貰っていました。  
何かと二人は縁があるんじゃないでしょうか？

それでは皆さん、あと9時間ぐらいしかありませんがよいお年を！  
！（これって大晦日使う言葉でしたっけ？）（汗

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8449p/>

---

大晦日！ スペシャル大会！

2011年10月8日13時04分発行